日本道徳教育方法学会第 24 回研究発表大会 プログラム

期日:平成30年6月9日(土)、10日(日)

会場:琉球大学教育学部 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

大会事務局:琉球大学教育学部 上地完治 研究室内

主催:日本道徳教育方法学会

大会参加費 2,000円・・・会員、非会員とも。当日、受付にて徴収します。

懇親会費 4,000円・・・懇親会は、会員、非会員を問わず参加できます。会員は参加申込用紙で、非会員

は当日、受付にてお申し込みください。

【第1日】6月9日(土)

11:00
12:30
13:00
14:55
15:10
17:40
18:00
20:00

<td rowspan="3" color="1" color="1

会員控室(教107教室・教108教室)

理事会 11時00分~13時00分(教101教室)

受 付 12時30分~(教育学部1階玄関ロビー)

自由課題研究発表(発表25分・質疑30分)

分科会 I (教 102 教室) 司会: 柴原 弘志(京都産業大学)

13:00~13:55 ① 新たな方法の構築を目指して、ローテーション道徳に代わるもの

~学校現場における道徳教育の現状から 2

朴 孝烈 (大阪府泉大津市立誠風中学校)

14:00~14:55 ② 各教科等との横断的な教育活動を考慮した高校道徳の実践

○ 小川 哲哉 (茨城大学)

石井 純一 (茨城県教育庁)

宮本 夏海 (茨城県立小瀬高等学校)

渡邊 哲郎 (茨城県教育庁)

長島 利行(茨城県教育庁)

分科会Ⅱ(教103教室) 司会:林 泰成(上越教育大学)

13:00~13:55 ① 児童生徒一人一人の目が輝く道徳科の授業

~「動き」のある授業で、生き方についての考えを深める~

○ 磯部 一雄(札幌市立北野台中学校)

杉中 康平 (四天王寺大学)

14:00~14:55 ②「自我関与」のための手立てを検討する

服部 敬一(大阪成蹊大学)

分科会Ⅲ (教 106 教室) 司会:金光 靖樹 (大阪教育大学)

13:00~13:55 ① 「思いやり」(Bの視点)から「よりよい社会の実現」(Cの視点)へ ~子どもにとっても教師にとっても面白く楽しい授業を目指して・「背中」(小学校高学年) での実践~

松原 弘(大阪府和泉市立郷荘中学校)

14:00~14:55 ② 道徳科における深い学びの実現に向けた授業づくり

ーねらいとする価値への追求を見通す「三つの視点」の観点から一

眞榮城 善之介(琉球大学教育学部附属小学校/琉球大学大学院【院】)

テーマ: 子どもたちの育ち(自己形成)と道徳教育

企画趣旨

道徳の教科化が決定されて以来、学校現場では教科化への対応に強い関心が向けられてきた。しかしながら、今年のシンポジウムでは授業改善ではなく、授業が成立するための前提条件に目を向けてみたい。 授業が成立する条件とは、すなわち、「子どもが毎日元気に学校へ登校してくる」ということである。

学校の外側の要因、つまり子どもを取り巻く社会的環境要因による学校教育への影響は看過できないほど大きく、とりわけ沖縄では、子どもを取り巻く環境の苛酷さが近年注目されている。2017年に出版された『沖縄子どもの貧困白書』によれば、沖縄の子どもたちを取り巻く環境が次のような数字で示されている。子どもの貧困率29.9%(全国平均16.3%)、千人当たりの離婚率2.51件(全国平均1.75件)、県民所得210.2万円(全国平均306.5万円)。ちなみに、離婚率、県民所得、それに母子世帯の割合は都道府県別に比較した平成28年度のデータではいずれも「ワースト1」となっている。

こうした子どもを取り巻く環境の深刻な問題は、程度の差があるだけで、全国全ての都道府県にも存在 している、いわば共通した問題であるといえるだろう。私たちは授業改善を追い求める一方で、こうした 子どもたちの育ち(自己形成)に対しても目を向けておく必要があるのではないだろうか。

しかも、教科化によって「考え、議論する道徳」が提唱され推進されているが、子どもたちの考えとは、彼/彼女らの生活経験を通して培われ形成されたものであり、彼/彼女が考えるという営みや、議論するという営みにも、当然のことながらそういった生活経験が反映しているはずである。したがって、教師が子どもの考えや議論を理解するためには、その背後に潜む子どもたちの生活経験についての理解が不可欠であるとも考えられるのである。そしてなにより、自我関与する自我こそ、そうした生活経験の中で形成された自我であり、そうした世界を生きている自我なのである。

現在、たまたま光が当たりはじめた沖縄の現状に関する報告を通して、学会員一人一人の身の回りの状況に思いをはせ、子どもの育ちや学校での授業改善を外堀から切り崩そうとしている深刻な状況について、認識を共有するとともに積極的に意見交換をおこなっていきたい。

◇ シンポジスト

地域と学校での子どもの育ち : 辻 雄二 (琉球大学教育学部附属小学校長・

琉球大学教育学部教授)

子どもたちの育ちの現実に関わって : 岸本 琴恵(名護市教育委員会・臨床心理士)

子ども食堂に関わって : 菅原 耕太 (NPO ももやま子ども食堂)

◇ 司会

上地 完治 (琉球大学)

加藤 英樹 (名古屋市立西築地小学校)

8:30 9:00 11:55 12:00 12:55 13:05 13:55 14:00 16:00

| 自由課題研究発表 | <昼食> | 会員総会 | 課題研究 | (教 104 教室) | (教 104 教室)

会員控室(教107教室・教108教室)

受付8時30分~(教育学部1階玄関ロビー)

自由課題研究発表(発表25分・質疑30分)

分科会IV (教 102 教室) 司会: 堺 正之(福岡教育大学)

10:00~10:55 ② 道徳科における授業研究と授業改善に関する一考察

○ 椋木 香子 (宮崎大学)

後藤和之(宮崎大学教育学部附属小学校)

貴島 美保(宮崎大学教育学部附属小学校)

11:00~11:55 ③ 道徳授業における「事例」の機能に関する一試論 杉田 浩崇 (愛媛大学)

分科会V (教 103 教室) 司会: 永田 繁雄(東京学芸大学)

9:00~ 9:55 ① "対話"を大切にした深い学び

~「主体的・"対話"的で深い学び」の視点を踏まえて~

柴田 八重子(愛知淑徳大学【非】)

10:00~10:55 ② 「主体的・対話的で深い学び」のために授業者ができること 中山 真樹 (大阪府高槻市立竹の内小学校)

11:00~11:55 ③「考え、議論する道徳」授業の実践上の課題 齋藤 嘉則(香川大学)

分科会VI (教 106 教室) 司会:渡邉 満(広島文化学園大学)

9:00~ 9:55 ① 道徳価値内容項目の考究(1) -小・中学校指導項目と程順則の6聖諭-大庭 茂美(九州女子短期大学【名誉】)

10:00~10:55 ②「深まり」をどのようにして生み出すかー評価から道徳授業を変えるー 鈴木 賢一 (愛知県あま市立七宝小学校)

11:00~11:55 ③ エビデンス至上主義における道徳科評価の今後について 東風 安生 (北陸大学)

評議員会 12時00分~12時55分(教101教室)

会員総会 13時05分~13時55分(教104教室)

※ 第2日の昼食については、各自でご持参ください。大学構内の生協(食堂・売店)はご利用できません。

テーマ: 「考え、議論する道徳」の授業をどのように行うか -深く考える学びのプロセスに向けた多様な工夫-

企画趣旨

本年(平成30年)4月より「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業が、全国の小学校で行われている。ついに本格的に始まった道徳の教科化であり、今後、多くの教育現場では、「考え、議論する道徳」をめざした授業が展開されていくことになる。

しかし実際のところ、道徳科を初めて担当する先生方の多くは、どのような展開にすれば期待されるような授業が実現するのか、いまだ具体的なイメージを持てないでいるのではないだろうか。

「考え、議論する道徳」とは、具体的にはどのような授業であるのか。従来の道徳授業とはどのような点が違うのか。

この問いに答えるための鍵となるのが、児童生徒の「深く考える学びのプロセス」を可能にする授業展開であろう。

周知の通り、新学習指導要領では全教科等において「主体的」、「対話的」で「深い」学びの実現を求めているが、道徳科でも「考え、議論する道徳」をこの三つの視点に基づいて構想することが重要であると思われる。

本課題研究では、「考え、議論する道徳」の授業が、どうすれば「主体的・対話的で深い学び」の視点に 基づきながら探究的な学習活動として展開できるのかについて、小・中学校で豊富な教育経験をお持ちの 先生方から、道徳科を初めて担当する先生たちへのメッセージを頂きながら、多様な角度から論究してみ たい。

◇ 登壇者

真榮城 善之介(琉球大学教育学部附属小学校)

古見 豪基 (埼玉県和光市立第五小学校)

杉中 康平 (四天王寺大学)

柳沼 良太 (岐阜大学)

◇ コーディネーター

小川 哲哉 (茨城大学)